

「令和の常識」は、おかしなことだらけ。
流行に背を向け、地に足をつけて生きる 自足のススメ！

『AI支配でヒトは死ぬ。 システムから外れ、自分の身体で考える』

(著者) 養老孟司

(価格) 1,540円 (税込) (発売日) 2021年9月24日 (出版元) ビジネス社

株式会社ビジネス社(東京都新宿区 代表取締役: 唐津隆)は、新刊書籍『AI支配でヒトは死ぬ。システムから外れ、自分の身体で考える』を2021年9月24日に発売いたしました。ぜひ、貴メディアにてご紹介いただけますと幸いです。

本書では、ヒトが自らモノを考え、動くことを放棄して、死んだも同然の状況をもたらしたAIブームについて、養老孟司氏が、仮想現実、グローバリズム、同一化の圧力など、おかしな令和の常識を斬っていきます。システム化の進んだ現代社会では、「脳」ばかりを肥大化させようとしてきました。するとどうなるか?ヒトとしての調子が狂ってきます。ジレンマを抱えたヒトは最悪の場合、自らモノを考え、動くことを放棄して、死んだも同然の状況になってしまいます。

『表現者クライテリオン』掲載を書籍化。

仮想現実、グローバリズム、同一化の圧力……「令和の常識」は、おかしなことだらけ。流行に背を向け、地に足をつけて生きる方法を伝授します。



◆目次

- 第一章 肥大化するシステムと、崩れ行く世間
- 第二章 システムを超える「もの」「自然」「身体」「国語」の手触りについて
- 第三章 「手入れという思想」～「バカの壁を超えるために」
- 第四章 「不気味なもの」との付き合い方
- 第五章 「自足」することと、「自立」すること
- 第六章 「一元化」し得ない世界のなかで
- 番外編 グローバリズムについて コロナ禍を考えるために

著者: 養老孟司

1937年、神奈川県鎌倉市生まれ。東京大学名誉教授。医学博士。解剖学者。東京大学医学部卒業後、解剖学教室に入る。95年、東京大学医学部教授を退官後は、北里大学教授、大正大学客員教授を歴任。京都国際マンガミュージアム名誉館長。89年、『からだの見方』(筑摩書房)でサントリー学芸賞を受賞。著書に、毎日出版文化賞特別賞を受賞したベストセラー『バカの壁』(新潮新書)のほか、『唯脳論』(青土社・ちくま学芸文庫)、『超バカの壁』『「自分」の壁』『遺言』(以上、新潮新書)など多数。

【お問い合わせ先】 株式会社ビジネス社 広報担当: 松矢 〒162-0805 東京都新宿区矢来町114番地 神楽坂高橋ビル5F

E-mail: matsuyapress@gmail.com 携帯: 09072611982 TEL03-5227-1602 / FAX 03-52271603

著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。